

## 研究

佐伯市戦後五十年史（一四）

### 池田市政三期十二年の歩み

矢野 彌生

（会員 佐伯市中山区）

〈前号〉

一三 昭和三十年代の社会・文化・スポーツ（続）

（四）スポーツ

一四 池田市政三期十二年の歩み

（一）池田市政の発足と経過

第一期目

〈広い視野に立った市政の執行〉池田利明は、昭和四十二年（一九六七）四月、佐伯市長に立候補し、対立候補の金田豊を破って当選。六代目の市長となった。

池田市長は、佐伯市が県南の政治・経済・産業の中心であり、大分新産都の衛星都市という地理的条件を前提

として、広い視野に立って諸般の施策を推進することを施政方針として、明るく健康で災害のない豊かな都市づくりを目指した。

このような方針のもと、念願の赤字解消を二年目に果たし、この間、木立防災ダム完成（昭和四十二年）、番匠川スポーツ公園完成（昭和四十三年）、佐伯木材団地の起工式（昭和四十四年）、佐伯文化会館着工（昭和四十五年）といった諸事業を遂行した。

また、高度成長期に問題化した産業公害に対して、同四十五年九月には公害対策特別委員会の設置、同年十月には市役所に公害課を新設し、本格的に公害対策に取り組む。

第二期目  
〈市民意識の結集を図る〉昭和四十六年四月の市長選挙は、その直前まで無競争が予想さ

れたが、共産党の吉田久光が立候補を表明、投票の結果、池田利明二万一九八九票、吉田久光七八〇八票と楽勝したが、八〇〇票近い吉田久光候補の得票は、一つの批判票として評価された。

池田市政は二期目はますます磨きがかかり、福祉や社会教育、環境衛生施設などに力を入れている。

さらに、昭和四十六年十一月には市政施行三十周年を祝い、同四十七年三月には佐伯市民憲章を制定している。同四十九年七月には、県下でも評価の高かった『佐伯市史』の発刊、同五十年三月には市花（さざんか）、市木（もつこ）を制定するなど、市民意識の結集に気を配っている。

### 第三期目

〈環境衛生の整備や福祉、社会教育に尽力〉

昭和五十年四月二十七日の統一地方選挙で、池田利明は市長三選を果たしたが、一三六票というわずかの差であった。三期も二期に引き続いて広い視野に立った市政を執行している。

環境衛生施設では昭和五十一年に広域市町村圏事務組合し尿処理場着工、同五十二年に佐伯環境浄化センター建設、同五十三年にはごみ焼却場建設着工など。

また、福祉や社会教育では、昭和五十一年勤労青少年ホーム体育館完成・社会教育課新設・社会福祉センター発足、同五十二年には佐伯港湾労働者福祉センター落成など。

しかし、三期目には経済の低成長時代の影響もあって昭和五十年興人佐伯工場の倒産、同五十三年には臼杵鉄工佐伯造船所も倒産し、佐伯市は昭和五十三年十一月に

特定不況地域に指定されており、財政事情はひっ迫した。当時、特定不況地域として全国三十地域（三十三の市と町）が指定された。大分県では佐伯市が特定地域に、関連市町村としては臼杵市・津久見市・弥生町・鶴見町が指定されている。（第1表参照）

### 〈池田利明の略歴〉

池田利明は、生涯をかけて佐伯の発展につくした。

敗戦後の昭和二十二年（一九四七）に市議に当選以来、

市議四期十六年、県議一期四年、市長三期十二年の長期にわたり政治家として多大の功績を残した。

上堅田村蛇崎の出身 池田利明は、明治四十二年（一九〇九）七月十五日、上堅田村蛇崎の素封家（財産家）に生まれた。利明の父・長作は、かつて上堅田村長を務め、郷党政界の有志だった。後年、利明がすぐれた政治家として活躍したのも、父の影響があったのかもしれない。彼は一見豪放に見えたが、細心な性格で、温厚篤実な



池田利明

人柄であったという。

佐伯中学、五高から東京帝国大学へ 池田利明は、昭和二年（一九二七）に旧制佐伯中学（第十三回生）を卒業すると、旧制第五高等学校へ進み、さらに東京帝国大学経済学部経済学科へ入学した。

昭和十二年に大学を卒業後、大陸雄飛の夢を抱いて満州（現・中国東北部）へ赴いた。満州国交通部郵政総局、満州炭鉱株式会社に勤務し、引き揚げ後は佐伯市上堅田農業会専務理事、上堅田地区農地委員会委員、上堅田農協組合長などを務めた。

佐伯市議から県議へ 前述したように、池田利明の父はかつて上堅田村長を務め、郷党政界の有志であった。利明は、父長作の地盤をそっくり継承して佐伯市議會議員に出馬、当選した。市議を四期十六年間努め、その間に副議長・議長に就いた。昭和三十八年（一九六三）から大分県議を一期務め、市政界のベテランとなった。

第一表池田市政12年のあゆみ（略年表）

| 年代              | 月              | 主なこと   | 備考  |
|-----------------|----------------|--|---|
| 昭和42年<br>(一九六七) | 5              | 池田利明市長就任   |   |
| 昭和43年<br>(一九六八) | 6              | 番匠川スポーツ公園完成  |   |
| 昭和44年<br>(一九六九) | 2              | 佐伯市公害対策協議会発足   |   |
| 昭和45年<br>(一九七〇) | 2, 4, 7, 9, 10 | 仲谷特殊紡績佐伯工場竣工<br>佐伯木材団地起工式<br>大入島海底給水管敷設<br>佐伯地域広域市町村圏事務組合発足<br>公害対策特別委員会設置 |   |
| 昭和46年<br>(一九七一) | 4              | 公害追放佐伯市民会議結成   |   |
| 昭和47年<br>(一九七二) | 3              | 市役所に公害課新設<br>佐伯港重要港湾指定<br>青山黒沢ダム着工<br>佐伯文化会館着工<br>池田市長再選                   |   |
|                 | 8              | 佐伯市史編さん事務局発足   |   |
|                 | 9              | 佐伯・宿毛間フェリーボート就航  |   |
|                 | 11             | 佐伯文化会館落成   |   |
|                 |                | 市制施行30周年記念式挙行  |   |
|                 |                | 佐伯市民憲章制定   |   |
|                 |                | 佐伯広域消防本部発足   |   |
|                 |                | 文化会館   |   |
|                 |                | 佐伯宿毛フェリー   |  |
|                 |                | 仲谷特殊紡績佐伯工場   |  |



次のように基本方針を述べている。

(前略) もとより限られた財政事情の中  
 ありますので計画の総花化をさけ、事業の  
 緊急性や効率性に留意し、まず、当面の重  
 点は広域ネットワークの形成の基盤である  
 道路整備に万全を期し、そのほか公共施設  
 などについても、広域行政システムの合理的  
 整備を図りながら慎重に検討し、計画を  
 策定いたしました。社会的・経済的にそれ  
 ぞれ立場を異にする諸条件の中で、関係市  
 町村が一致点を見出すには幾多の障壁があ  
 ることは否めませんが、要は「豊かな住み  
 よい地域の建設」という共通目的に向かっ  
 て県南地域の開発に邁進することになりま  
 す。佐伯地域の広域市町村の組合事務局は  
 佐伯市役所三階に設置、一市八町村から派  
 遣された職員によって広域圏の事業構想が  
 作成された。すなわち、その基本構想は、  
 工業と観光の開発を柱に昭和五十年までに  
 達成しようとするものである。

| 昭和52年<br>(一九七七)   | 昭和53年<br>(一九七八)   | 昭和54年<br>(一九七九)   |
|---|---|---|
| 11 12 10 6 3  | 11 12 10 8 7 2  | 11 12 10 8 7 2  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域市町村圏事務組合し尿処理場着工</li> <li>・第一回ふるさと祭り開催</li> <li>・公設佐伯水産地方卸売市場完成</li> <li>・佐伯市民プール落成</li> <li>・佐伯環境浄化センター落成</li> <li>・県営佐伯南部地区ほ場整備事業竣工<br/>(西野・府坂)</li> <li>・県営佐伯南部地区ほ場整備事業(棚野・波越・石打)</li> <li>・佐伯港湾労働者福祉センター落成開所式</li> <li>・堅田養豚団地竣工(主団地 竹角)</li> <li>・佐伯市立渡町台幼稚園竣工開園</li> <li>・白杵鉄工(株)佐伯造船所倒産</li> <li>・特定不況地域指定</li> <li>・ごみ焼却場建設着工</li> <li>・白杵鉄工(株)佐伯造船所更生法適用開始</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却場建設起工式</li> <li>・特定不況地域に決定</li> <li>・生活改善センター落成(岡区)</li> <li>・佐伯市老人ホーム落成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却場建設起工式</li> <li>・特定不況地域に決定</li> <li>・生活改善センター落成(岡区)</li> <li>・佐伯市老人ホーム落成</li> </ul> |
|    |    |    |
| 公設卸売市場  | 環境浄化センター  | 老人ホーム   |

『市勢要覧』 1981・1977より作成

広域ネットワーク（広域圏の道路の整備） 佐伯市南郡の整備 八か町村の広い地域を開発していくには、その基盤となるのは道路である。道路の整備は特に重要である。

広域市町村圏の発足当時は、国道を除いて県・市町村道の改良や舗装は非常に遅れていた。そこで当初の目標としてネットになる主要道路を改良率二・八割、舗装率六二・三割まで整備し、さらに必要な橋などの整備を予定している。この道路整備事業に要する経費は総額二九億八千万円になるという（『佐伯市史』）。

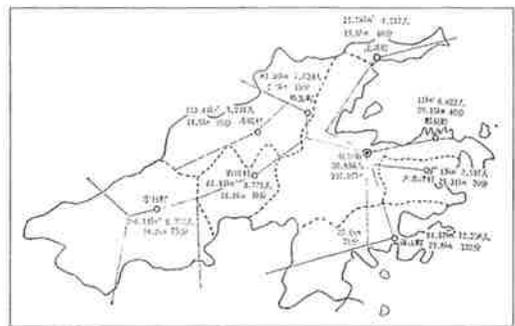
圏域開発の基盤となる基幹道路のうち、圏域内を横断する国道十号線については全線整備舗装されているので、大分市を起点とする海岸路線国道二二七号線を延長し主要地方道、延岡佐伯線に直結し、同時に国道昇格を促進することにより佐伯市・延岡市を結ぶ海岸線の実現を図る。

さらに、三重町より宇目町、宮崎県北川村と圏域を縦貫する国道三三六号線の完備により、三つの基本路線とする。これら国道十号、一二七号、三三六号の各線を基幹とする広域的な観点に立ち、さらには公共施設の

適正な配置とあいまって、住民の生活水準が効果的に確保されるよう市町村道の改良舗装を促進し、併せて一次生活圏と中心都市を結ぶ国道・県道の改良舗装を強く要望するとともに、

これら国道・県道と市町村道の連携、新しく配置される公共施設と地域相互間の道路橋梁等の交通体系の再編成について検討し、全域の生活水準の均衡化を図るようネットワークを完備することを目標とした。

佐伯地域広域市町村圏が発足後、昭和四十九年九月には木立―畑野浦間トンネル貫通、同年十一月には延岡佐伯線が国道に昇格しており、同四十九年四月には日豊本



第1図 佐伯地域広域市町村圏  
（『佐伯市史』より引用）

（注）広域中心都市までの所要時間（バス）と距離・人口・面積

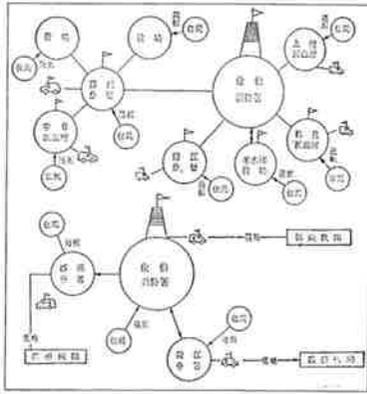
線の電化など佐伯地域広域圏の交通事情も改善の兆しが見えてきている。

**広域消防署** 〈佐伯広域消防本部の発足〉 昭和四十七年の設置 四月一日に佐伯広域消防本部が発足した。その機構は本部を佐伯市に置き、弥生町に弥生、本匠・直川を担当する西部分署を、また蒲江町に蒲江分署という二つの分署、そして宇目・上浦・鶴見に派出所を置くという一署・二分署・三派出所を設けることになった。

機動力として消防車八台、救急車四台、指令車一台を有し、最終的には百二十三人の職員によって活動することになる（『佐伯市史』）。

**佐伯地域**

広域圏の消防活動のシステムをみると、第2図のとおりである。



第2図 広域消防署の消防及び救急活動（『佐伯市史』より引用）

〈広域消防署設置の必要性和その背景〉 消防体制は青壮年による消防団にたよっているが、近年、出稼ぎ等による団員不足などのため、その運営に支障を来しつつある。

また、中心都市においても都市化の進展等に伴う建築物の高層化あるいは、モーターゼーションの普及に伴う交通渋滞のため消防自動車のスピード運行が困難となってくるなどの事情から、既設の消防体制では十分な活動ができない点もあり、圏域を対象とした広域消防体制の確立とともに近代消防力の強化を図ることが望まれている。

さらに、交通事故の増加による救急業務も急増する現状にあるので新鋭の機動力を充実した常備消防署を設置する。この目的を達成するための当初の急務は基幹道路の整備にあり、広域のネットワークが完全に整備されれば、消防署と関係市町村との連携は、無線電話を設置することににより、迅速機動的な消防および救急体制の確立が図れるようになる<sup>30)</sup>。

**特別養護老人** 〈弥生町に特別養護老人ホーム開園〉

**ホームの設置** 社会福祉の面では最近問題になっている一人暮らしの老人や寝たきり老人のために、特に看護を必

要とする者に限り収容するホーム建設を計画、弥生町に建設し、特別養護老人ホーム豊寿苑が昭和四十八年六月一日開園している。

また、広域圏事務組合は老人福祉センター、軽費老人ホーム、老人憩いの家の整備等を図る。なお、老人憩いの家は、基礎集落単位に一か所を原則として整備を図るとともに、老人クラブの育成強化に努め、豊かな老後が過ごされるようにする。さらに、社会保障制度等の充実により今後は働く能力をもつ老人が増すことが考えられるので老人の働く場を提供する、ことなど活動の方針としている。

なお、昭和四十八年に弥生町の木ノ瀬に開園した特別養護老人ホーム「豊寿苑」は、同五十年には増築が行われて定員一〇〇名となつている。



豊 寿 苑

【注】(76) 矢野彌生 「池田明伝」(『佐伯市報』二〇〇一年八月一日号)

(77) (76)に同じ

(78) 『広域市町村圏計画書』(佐伯地域広域市町村圏事務組合 昭和四十六年三月)

(79) (78)に同じ

(80) (78)に同じ

(81) 『弥生町誌』(弥生町 平成八年)

地名のルーツ

◆波寄(本匠村)

谷や川の合流地点がハキ(吐)・ハキアイ(吐合)・デアイ(出合)・オチアイ(落合)である。ハキには八木、羽木、波来などの字も当てられる。本匠村の波寄(ハキ)もおそらく合流点地名であらう。(大分の地名)梅木秀徳

◆越田尾(蒲江町)

尾根筋のたわんでいるところがタワで、県下ではタオ(田尾)・トウ(塔)が多い。鞍形尾、松形尾はクラの形にたわんだタオ、松の生えているタオであらう。タワを越える、つまりタワゴエ、トウゴエがトウゲ(峠)の起源である。山を越して往来する場合、人々が最も越しやすいタワ、トウを選ぶのは当然である。蒲江町の越田尾(コエタオ)はタオゴエが逆になったものだ。(大分の地名)梅木秀徳